

国道 8 号 彦根～東近江（仮称）

環境影響評価準備書の概要

令和 5 年 10 月

<本日の説明内容>

1. 事業概要
2. 手続きの経緯と流れ
3. 環境影響評価の結果

1. 事業概要

1. 1 事業の目的

1. 2 事業の内容

1. 3 標準横断図

1. 1 事業の目的(1/2)

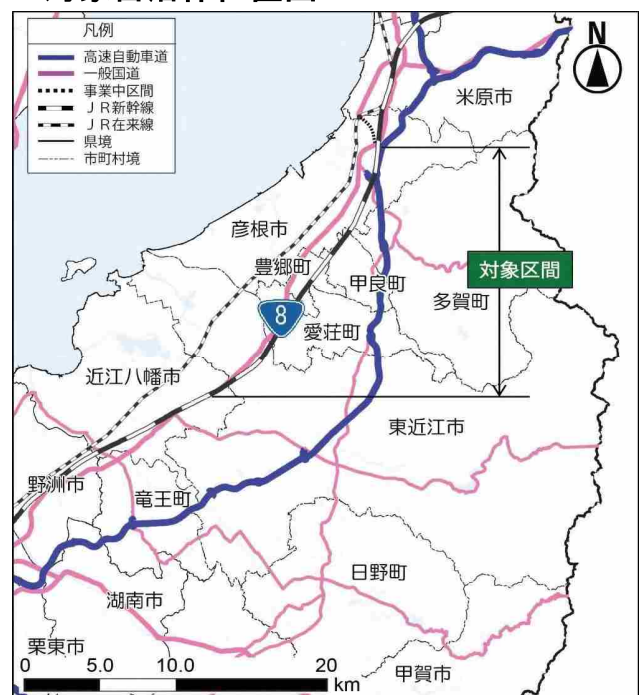
準備書：第3章

- ◆国道8号は、新潟県新潟市から京都府京都市へ至る延長約600kmの一般国道であり、地域の南北軸を担う主要幹線道路です。
- ◆対象事業は、彦根市～近江八幡市間を結ぶ、延長約24km・4車線の道路です。

■ 広域図



■ 対象自治体位置図



1.1 事業の目的(2/2)

- ◆対象地域である彦根～東近江間※では、日常的な渋滞の発生により、高速ICまでのアクセス性が悪く産業活動や観光振興の妨げになっています。また、渋滞に付随して国道8号では追突事故が多数発生しており、渋滞を回避するために幅員の狭い生活道路へ交通が流入することから、歩行者と車両の接触事故の危険性も高い地域となっています。
- ◆対象事業は、「産業振興の促進」「渋滞の緩和」「交通安全の確保」「観光振興の促進」を目標とし、より良い地域づくりに寄与することを目的とします。



※終点部は近江八幡市の一部を含みます。

1.2 事業の内容

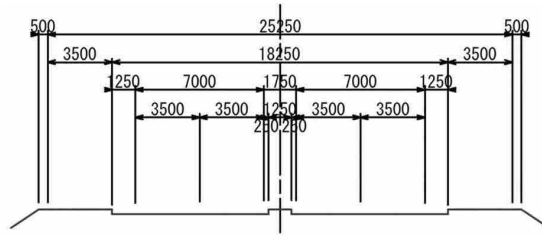
| 項目 | 内容 | 項目 | 内容 |
|---------------|-----------------|-------|---|
| 都市計画対象道路事業の名称 | 国道8号 彦根～東近江(仮称) | 起終点 | 起点:滋賀県彦根市 終点:滋賀県近江八幡市 |
| 都市計画決定権者の名称 | 滋賀県 | 道路区分 | 第3種第1級 |
| 事業予定者の名称 | 国土交通省 近畿地方整備局 | 計画交通量 | 24,800～43,300台/日 (2040年推計交通量) |
| 都市計画対象道路事業の種類 | 一般国道の改築 | 構造の概要 | 地表式(平面構造、盛土構造、切土構造)、嵩上式(橋梁・高架構造、盛土構造)、地下式(トンネル構造) |
| 延長 | 約23.6km | | |
| 車線数 | 4車線 | | |
| 設計速度 | 80km/時 | | |

■都市計画対象道路事業実施区域の位置

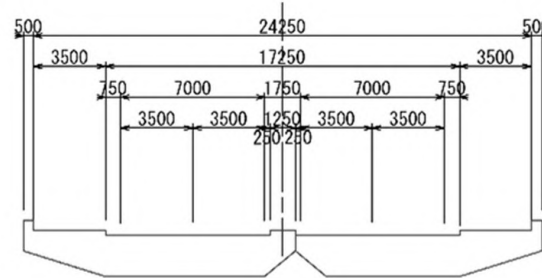


(単位:mm)

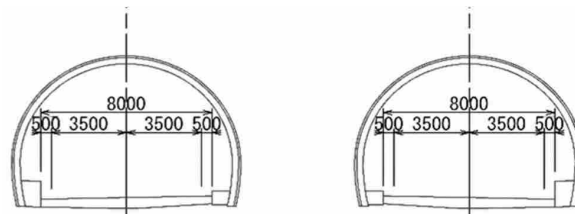
地表式



嵩上式



地下式



6

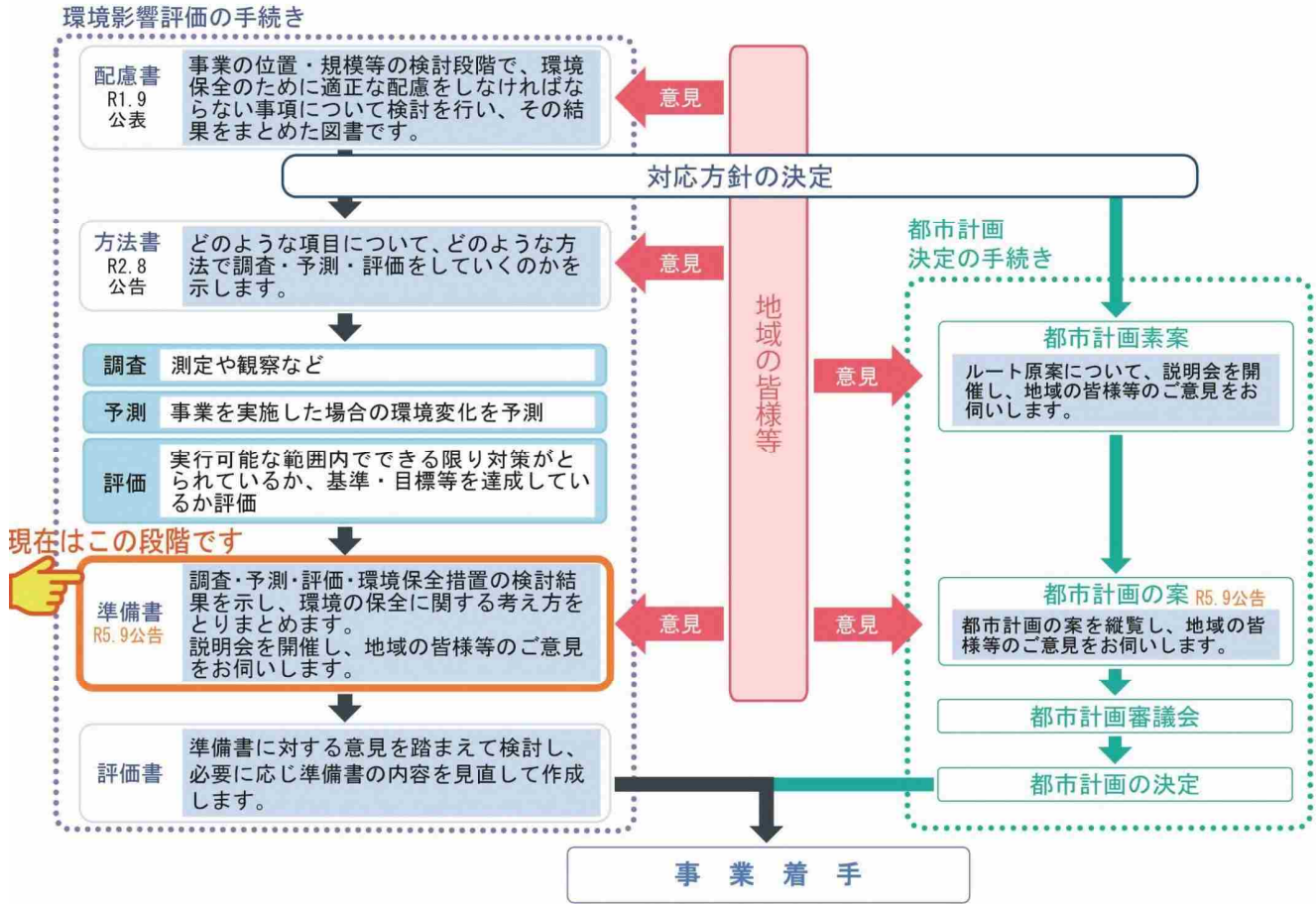
2. 手続きの経緯と流れ

2. 1 環境影響評価と都市計画の手続きの経緯と流れ

2. 2 環境影響評価の項目

7

2.1 環境影響評価と都市計画の手続きの経緯と流れ



8

2.2 環境影響評価の項目(1/3)

準備書：第10章

| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | 工事の実施 | | | | | | 土地又は工作物の存在及び供用 | | | | |
|---|-----------------|------------------------|---------|----------------------|--------------|----------|---------|--------|----------------|------------|--------|---|---|
| | | | 建設機械の稼働 | 両運資の搬材運に及び行用びい機する機車の | 去存切の土工等物又は除既 | の工設置工ヤード | 設置用道路等の | 水底の掘削等 | 在は道掘路割(地)表の式存又 | の道存路在(嵩上式) | 自動車の走行 | | |
| 環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査・評価されるべき環境要素 | 大気環境 | 大気質 | 二酸化窒素 | ● | ● | | | | | | | ● | |
| | | | 浮遊粒子状物質 | ● | ● | | | | | | | | |
| | | | 騒音 | 騒音 | ● | ● | | | | | | | ● |
| | | | 振動 | 振動 | ● | ● | | | | | | | ● |
| | | 低周波音 | 低周波音 | | | | | | | | | ● | |
| 水環境 | 水質 | 水の濁り | | | | ● | | ● | | | | | |
| | 土壌に係る環境その他の環境 | その他の環境要素 | 日照阻害 | | | | | | | | ● | | |
| 生物の多様性の確保を旨として調査・評価されるべき環境要素 | 動物 | 重要な種及び注目すべき生息地 | ● | | | | ● | | | | ● | | |
| | 植物 | 重要な種及び群落 | | | | | ● | | | | ● | | |
| | 生態系 | 地域を特徴づける生態系 | | | | | ● | | | | ● | | |
| 人と自然とのふれあいを旨として調査・評価されるべき環境要素 | 景観 | 主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観 | | | | | ● | | | | ● | | |
| | 人と自然とのふれあいの活動の場 | 主要な人と自然とのふれあいの活動の場 | | | | | ● | | | | ● | | |
| 環境への負荷の量を評価されるべき環境要素 | 廃棄物等 | 建設工事に伴う副産物 | | | ● | | | | | | | | |
| 環境基本条例第10条第1項第3号に定める歴史的遺産の保全を旨として調査・評価されるべき環境要素 | 文化財 | 文化財 | | | | | ● | | | | ● | | |

9

2.2 環境影響評価の項目(2/3)

準備書：第10章

| 環境要素の区分 | | | 影響要因の区分 | 工事の実施 | | | | | | 土地又は工作物の存在及び供用 | | | | |
|--|---------------|----------|------------------|---------|--------------------|-----------------|------------|-----------|--------|-----------------|------------|--------|---|---|
| | | | | 建設機械の稼働 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 | 切土工等又は既存の工作物の除去 | 工事施工ヤードの設置 | 工事用道路等の設置 | 水底の掘削等 | 道路(地表式又は掘割式)の存在 | 道路(嵩上式)の存在 | 自動車の走行 | | |
| 環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 大気環境 | 大気質 | 二酸化窒素 浮遊粒子状物質 | ● | ● | | | | | | | | ● | |
| | | | 粉じん等 | ● | ● | | | | | | | | | |
| | | 騒音 | 騒音 | ● | ● | | | | | | | | | ● |
| | | 振動 | 振動 | ● | ● | | | | | | | | | ● |
| | | 低周波音 | 低周波音 | | | | | | | | | | | ● |
| | 水環境 | 水質 | 水の濁り | | | | ● | | | ● | | | | |
| | 土壌に係る環境その他の環境 | その他の環境要素 | 日照阻害 | | | | | | | | | | ● | |

10

2.2 環境影響評価の項目(3/3)

準備書：第10章

| 環境要素の区分 | | | 影響要因の区分 | 工事の実施 | | | | | | 土地又は工作物の存在及び供用 | | | |
|---|-----------------|------------------------|---------|---------|--------------------|-----------------|------------|-----------|--------|-----------------|------------|--------|--|
| | | | | 建設機械の稼働 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 | 切土工等又は既存の工作物の除去 | 工事施工ヤードの設置 | 工事用道路等の設置 | 水底の掘削等 | 道路(地表式又は掘割式)の存在 | 道路(嵩上式)の存在 | 自動車の走行 | |
| 生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 動物 | 重要な種及び注目すべき生息地 | ● | | | | ● | | | | | ● | |
| | 植物 | 重要な種及び群落 | | | | | ● | | | | | ● | |
| | 生態系 | 地域を特徴づける生態系 | | | | | ● | | | | | ● | |
| 人と自然との豊かな触れ合いの確保を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 景観 | 主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観 | | | | | ● | | | | | ● | |
| | 人と自然との触れ合いの活動の場 | 主要な人と自然との触れ合いの活動の場 | | | | | ● | | | | | ● | |
| 環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき環境要素 | 廃棄物等 | 建設工事に伴う副産物 | | | ● | | | | | | | | |
| 環境基本条例第10条第1項第3号に定める歴史的遺産の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 文化財 | 文化財 | | | | | ● | | | | | ● | |

11

3. 環境影響評価の結果

12

大気質

<工事中>

- ① **建設機械の稼働（二酸化窒素・浮遊粒子状物質）**
- ② **工事用車両の運行（二酸化窒素・浮遊粒子状物質）**

<供用後>

- ③ **自動車の走行（二酸化窒素・浮遊粒子状物質）**

<工事中>

- ④ **建設機械の稼働（粉じん等）**
- ⑤ **工事用車両の運行（粉じん等）**

13

大気質

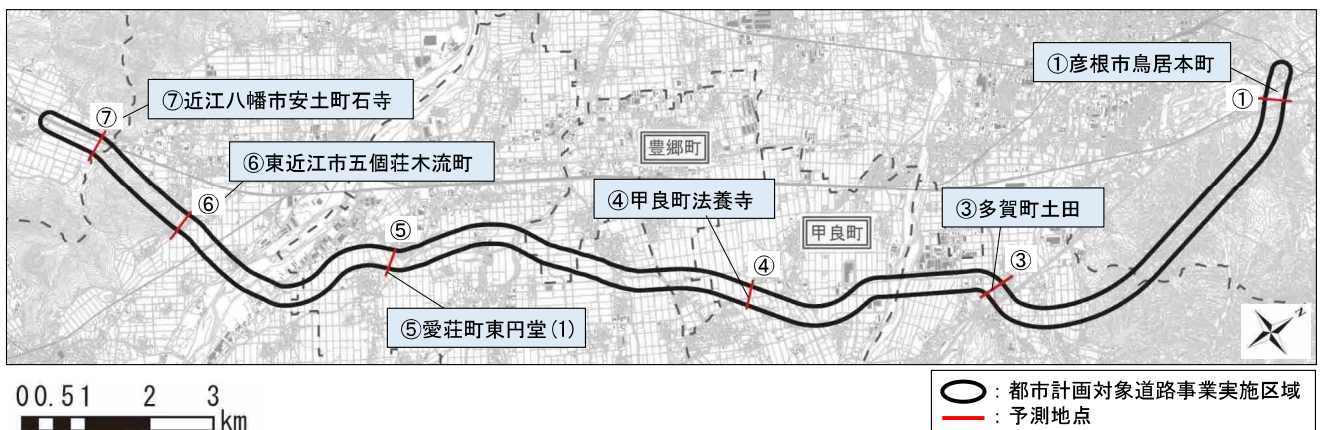
<工事中>

- ① 建設機械の稼働（二酸化窒素・浮遊粒子状物質）
- ② 工事用車両の運行（二酸化窒素・浮遊粒子状物質）

【大気質】①建設機械の稼働に係る二酸化窒素及び浮遊粒子状物質

準備書：第11章

予測地点 6地点（地上1.5m）において予測評価を実施。



予測結果

●すべての予測地点において基準値以下と予測。

| | 日平均値 (年間98%値、又は 年間2%除外値) | 基準値 (環境基準注) |
|---------------------------------|--------------------------------|----------------------------|
| 二酸化窒素 (ppm) | 0.017~0.023 | 0.04~0.06までのゾーン内 又はそれ以下 |
| 浮遊粒子状物質 (mg/m ³) | 0.029~0.041 | 0.10以下 |

注) 「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53年7月11日環境庁告示第38号)又は
「大気の汚染に係る環境基準について」(昭和48年5月8日環境庁告示第25号)の環境基準

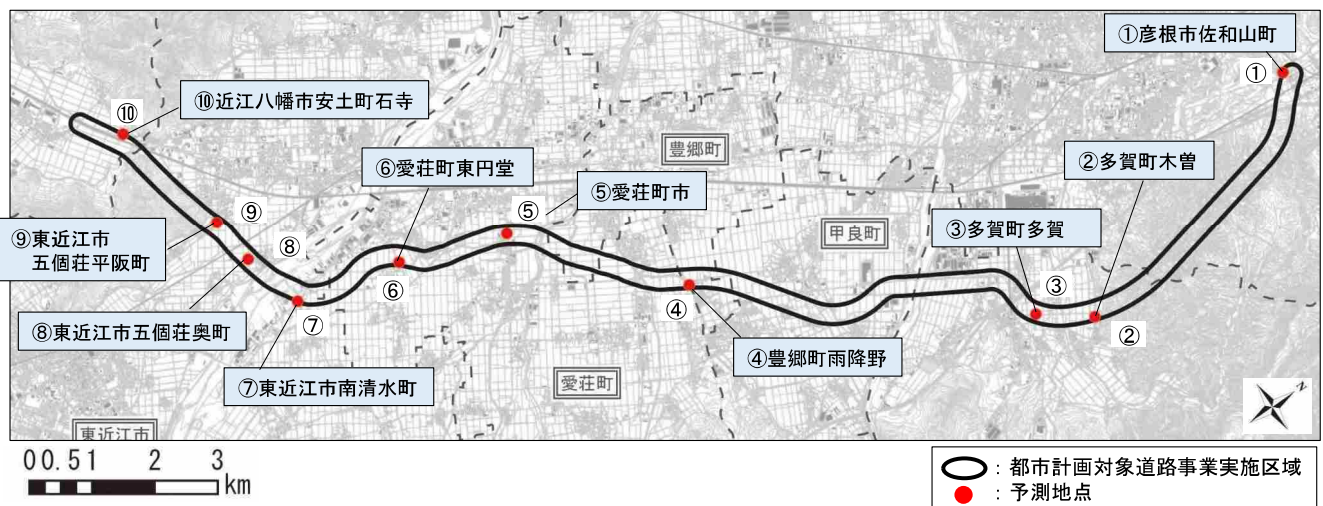
環境保全
措置

準備書
P11-1-36
~P11-1-37

- ・ 排出ガス対策型建設機械の採用
- ・ 作業方法への配慮 (車両等のアイドリングストップ、建設機械の複合同時稼働・高負荷運転を極力回避等)

予測地点

10地点 (地上1.5m) において予測評価を実施。



予測結果

●すべての予測地点において基準値以下と予測。

| | 日平均値 (年間98%値、又は 年間2%除外値) | 基準値 (環境基準注) |
|---------------------------------|--------------------------------|----------------------------|
| 二酸化窒素 (ppm) | 0.016～0.024 | 0.04～0.06までのゾーン内 又はそれ以下 |
| 浮遊粒子状物質 (mg/m ³) | 0.029～0.041 | 0.10以下 |

注)「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53年7月11日環境庁告示第38号)又は
「大気汚染に係る環境基準について」(昭和48年5月8日環境庁告示第25号)の環境基準

環境保全
措置

- ・工事用車両の分散
- ・作業者に対する工事用車両の運行の指導
(アイドリングストップ等)

準備書
P11-1-53
～P11-1-54

18

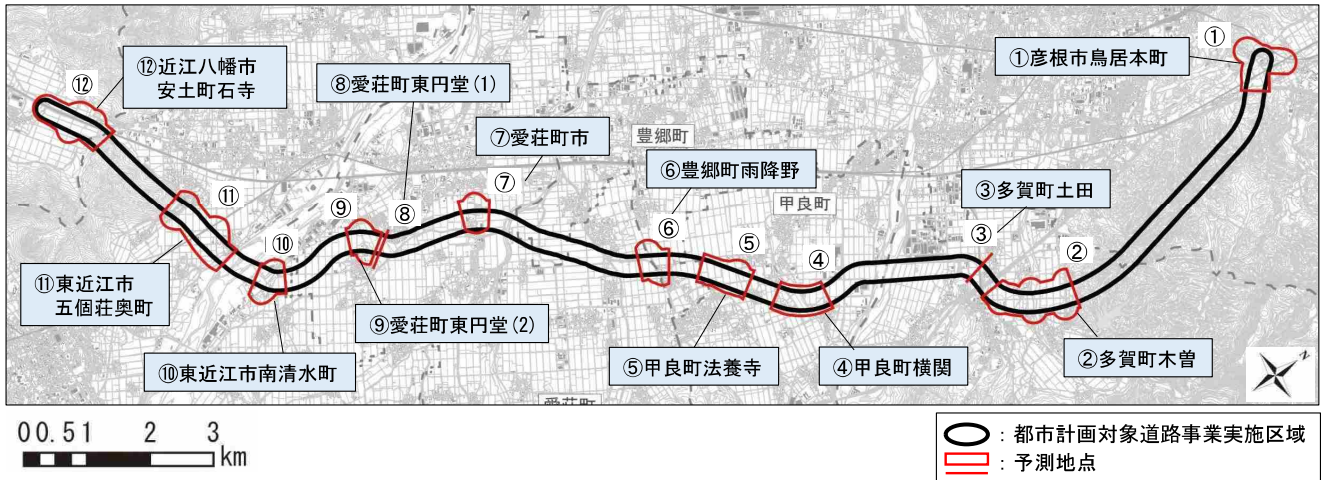
大気質

<供用後>

③自動車の走行（二酸化窒素・浮遊粒子状物質）

予測地点

12地点（地上1.5m）において予測評価を実施。



予測結果

●すべての予測地点において基準値以下と予測。

| | 日平均値 (年間98%値、 又は年間2%除外値) | 基準値 (環境基準注) |
|---------------------------------|--------------------------------|------------------------|
| 二酸化窒素(ppm) | 0.016~0.040 | 0.04~0.06までのゾーン内又はそれ以下 |
| 浮遊粒子状物質 (mg/m ³) | 0.029~0.041 | 0.10以下 |

注) 「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53年7月11日環境庁告示第38号)又は「大気の汚染に係る環境基準について」(昭和48年5月8日環境庁告示第25号)の環境基準

大気質

<工事中>

- ④ 建設機械の稼働（粉じん等）
- ⑤ 工事用車両の運行（粉じん等）

【大気質】④建設機械の稼働に係る粉じん等

準備書：第11章

予測地点 6地点（地上1.5m）において予測評価を実施。



※赤字は、参考となる値を超過する地点

予測結果 ● 3地点で参考値を超過。

予測結果

- 3地点で参考値を超過。
- 環境保全措置「散水」を実施することにより、すべての予測地点で参考となる値以下と予測。

| 工事区分 | 粉じん等 (t/km ² /月) | 参考となる値注 |
|--------|-----------------------------|-------------------------|
| 土工、橋梁工 | 0.3~7.3 | 10 t/km ² /月 |

注) 「道路環境影響評価の技術手法(平成24年度版)」(平成25年3月、国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所)に示されている降下ばいじんの参考となる値

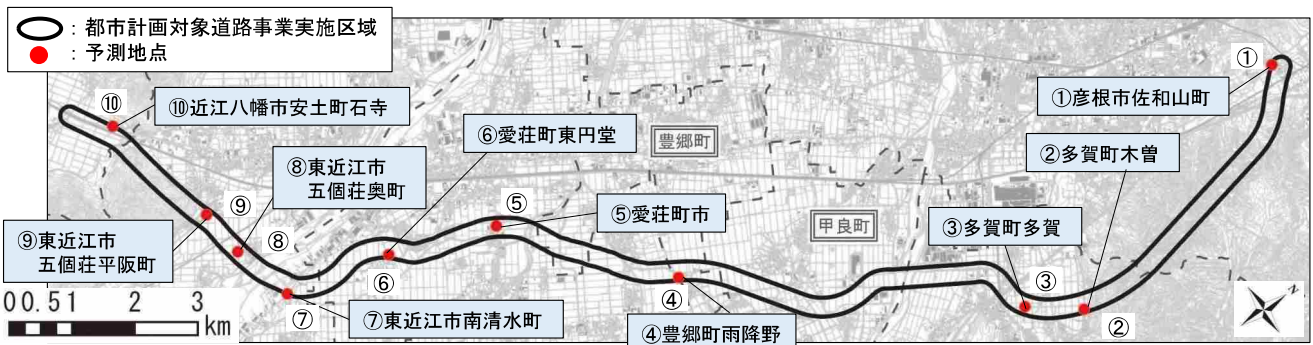
環境保全措置

準備書
P11-1-140
~P11-1-141

- ・ 散水
- ・ 作業方法への配慮 (建設機械の複合同時稼働、高負荷運転を極力回避等)
- ・ 仮囲いの設置

予測地点

10地点 (地上1.5m) において予測評価を実施。



予測結果

- すべての予測地点において参考値以下と予測。

| 粉じん等 (t/km ² /月) | 参考となる値注 |
|-----------------------------|-------------------------|
| 0.9~7.1 | 10 t/km ² /月 |

注) 「道路環境影響評価の技術手法(平成24年度版)」(平成25年3月、国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所)に示されている降下ばいじんの参考となる値

環境保全措置

- ・ 工事用車両の洗車
- ・ 工事用車両の分散

準備書
P11-1-150
~P11-1-151

騒音

<工事中>

- ① 建設機械の稼働
- ② 工事用車両の運行

<供用後>

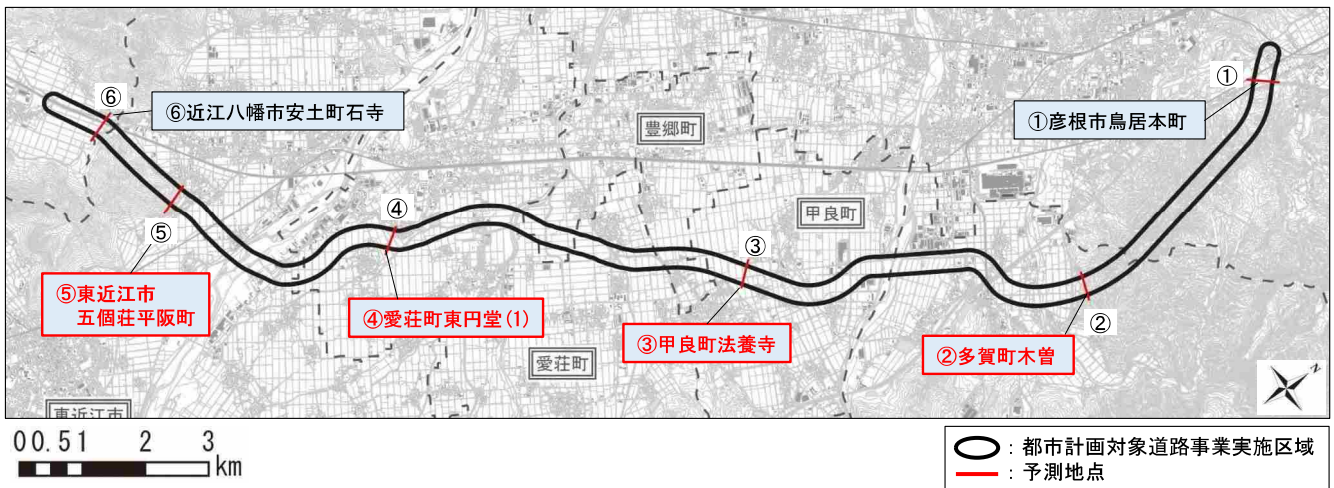
- ③ 自動車の走行

騒音

<工事中>

- ① 建設機械の稼働
- ② 工事用車両の運行

予測地点 6地点（地上1.2m）において予測評価を実施。



※赤字は、規制基準を超過する地点

予測結果 ● 4地点で基準値（規制基準）を超過。

予測結果 ● 4地点で基準値（規制基準）を超過。
● 環境保全措置「防音パネルなどの遮音対策」を実施することによりすべての予測地点において基準値以下と予測。

| 工事区分 | 騒音レベルの90%レンジの上端値（ L_{A5} ）又は騒音レベルの最大値の90%レンジの上端値（ $L_{A,Fmax,5}$ ） | 基準値（規制基準注） |
|--------|--|------------|
| 土工、橋梁工 | 75～83dB | 85dB |

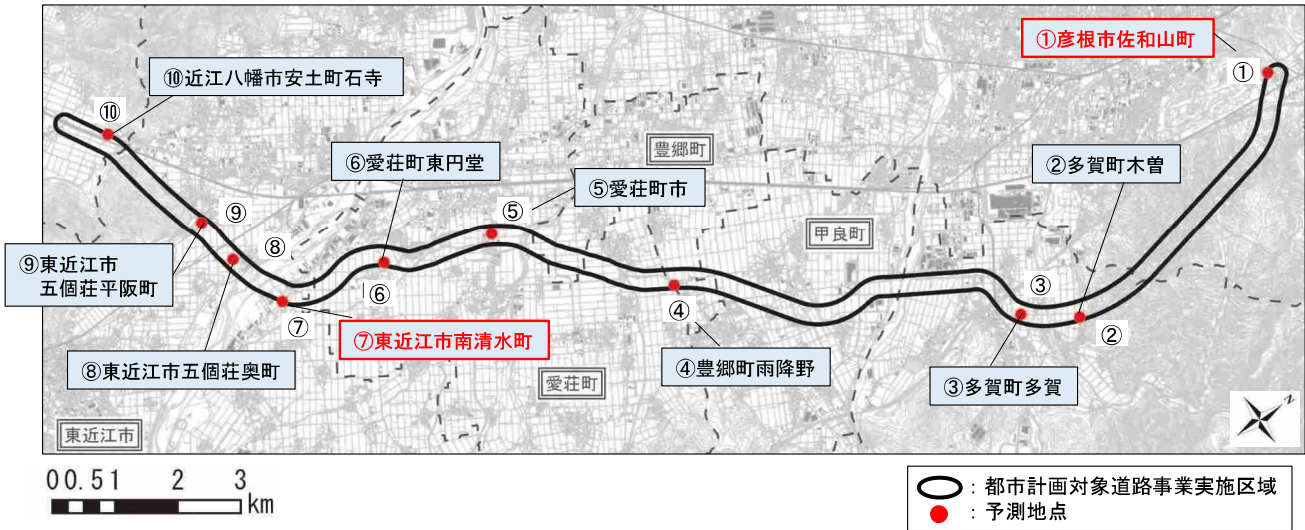
注）「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」（昭和43年11月27日厚生省、建設省告示1号）の特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準

環境保全措置

- ・ 防音パネルなどの遮音対策
- ・ 低騒音型建設機械の採用
- ・ 作業方法の改善（作業者に対する資材の取扱いの指導、車両等のアイドリングストップ等）

準備書
P11-2-16
～P11-2-17

予測地点 10地点（地上1.2m）において予測評価を実施。



※赤字は、基準値を超過する地点

予測結果 ● 2地点で基準値を超過。

予測結果 ● 2地点で基準値を超過。
● 基準値を超過する地点は、現況値が基準値を上回っており、対象道路の寄与は、既存道路の寄与を増加させるものではない。

| 等価騒音レベル (L_{Aeq}) | | 基準値 | |
|-----------------------|---------|----------------------------|----------------------------|
| 現況値 | 予測値 | 環境基準 ^{注1} (昼間) | 要請限度 ^{注2} (昼間) |
| 60~76dB | 61~76dB | 70dB | 75dB |

注1) 「騒音に係る環境基準について」(平成10年9月30日環境庁告示第64号)の環境基準

注2) 「騒音規制法第十七条第一項の指定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」(平成12年3月2日総理府令第15号)の自動車騒音の限度

環境保全
措置

- ・ 工事用車両の分散
- ・ 作業者に対する工事用車両の運行の指導
(アイドリングストップ等)

騒音

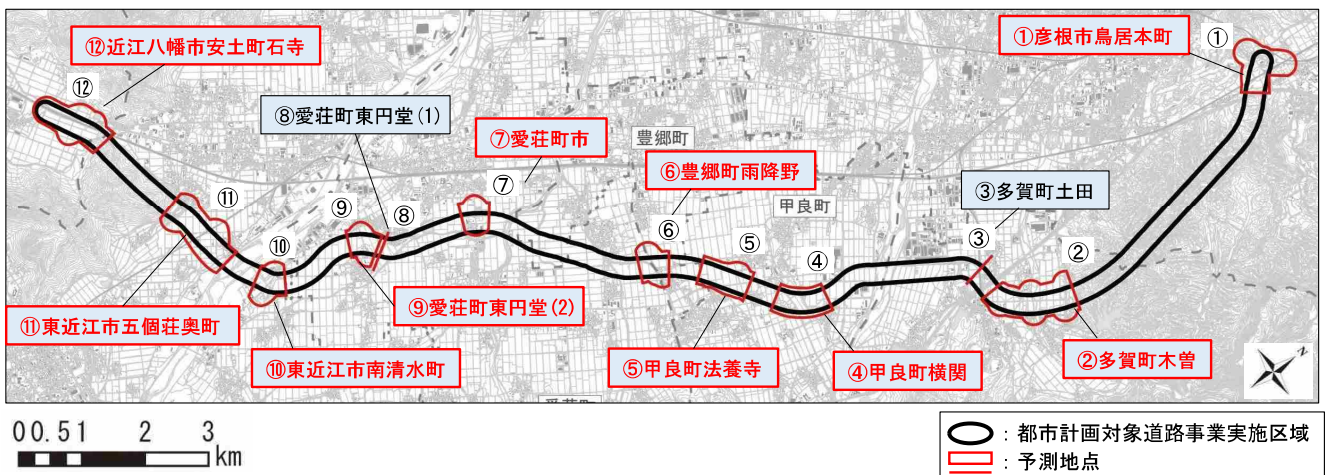
<供用後>

③自動車の走行

【騒音】③自動車の走行に係る騒音

準備書：第11章

予測地点 12地点（地上1.2m, 4.2m）において予測評価を実施。



予測結果 ● 10地点で基準値（環境基準）を超過。

予測結果

- 10地点で基準値（環境基準）を超過。
- 環境保全措置「遮音壁の設置」を実施することにより、8地点で基準以下と予測。
- 2地点については、対象道路以外の道路の寄与により、環境保全措置実施後も基準値を超過するため、当該道路管理者及び事業者が連携・調整を図りながら、将来における交通量の状況等を勘案し、必要に応じて環境保全対策を講じる。

| 時間区分 | 予測位置 ^{注1} | 等価騒音レベル（ L_{Aeq} ） | 基準値（環境基準 ^{注2} ） |
|------|--------------------|----------------------|--------------------------|
| 昼間 | 近接空間 | 54～72dB | 70dB |
| | 背後地 | 53～66dB | 65dB |
| 夜間 | 近接空間 | 51～64dB | 65dB |
| | 背後地 | 50～60dB | 60dB |

注1) 近接空間・・・敷地境界より20m(2車線以下の既存道路については15m)以内の地域を指す。
 背後地・・・敷地境界より20m(2車線以下の既存道路については15m)以遠の地域を指す。

注2) 「騒音に係る環境基準について」(平成10年9月30日環境庁告示第64号)の環境基準

環境保全
措置

- ・ 遮音壁の設置

準備書
P11-2-95
～P11-2-100

振動

<工事中>

- ① 建設機械の稼働
- ② 工事用車両の運行

<供用後>

- ③ 自動車の走行

振動

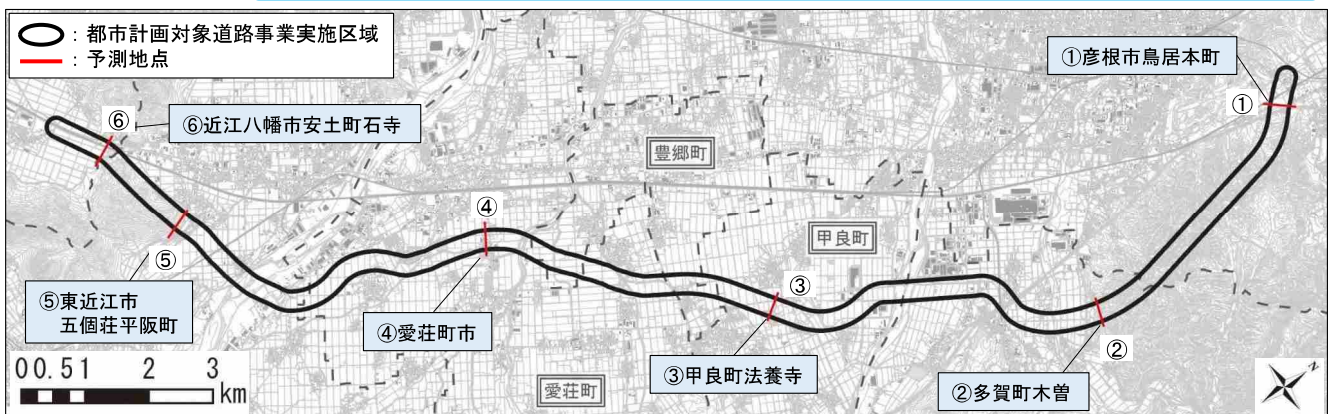
<工事中>

- ① 建設機械の稼働
- ② 工事用車両の運行

【振動】①建設機械の稼働に係る振動

準備書：第11章

予測地点 6地点において予測評価を実施。



予測結果 ● すべての予測地点において基準値以下と予測。

| 振動レベルの80%レンジの上端値 (L_{10}) | 基準値 (規制基準) 注 |
|-------------------------------|--------------|
| 58~64dB | 75dB |

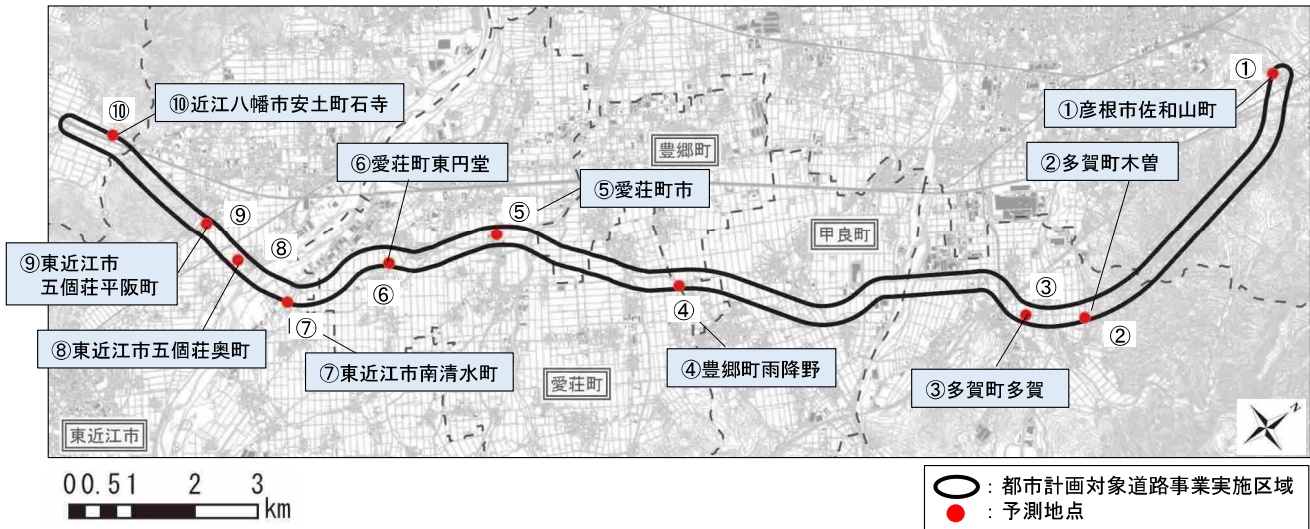
注) 「振動規制法施行規則」(昭和51年11月10日総理府令第58号)の特定建設作業の規制に関する基準

環境保全措置

- ・ 低振動型建設機械の採用
- ・ 作業方法の改善 (作業者に対する資材の取扱いの指導、建設機械の複合同時稼働・高負荷運転を極力回避等)

準備書：P11-3-12

予測地点 10地点において予測評価を実施。



予測結果 ● すべての予測地点において基準値以下と予測。

| 振動レベルの80%レンジの上端値 (L_{10}) | | 基準値 (要請限度注) |
|-------------------------------|---------|----------------|
| 現況値 | 予測値 | |
| 28~49dB | 29~49dB | 65dB |

注) 「振動規制法施行規則」(昭和51年11月10日総理府令第58号)の道路交通振動の限度

環境保全
措置

準備書
P11-3-23
~P11-3-24

- ・ 工事用車両の分散
- ・ 作業者に対する工事用車両の運行の指導
(法定速度の遵守等)

振動

<供用後>

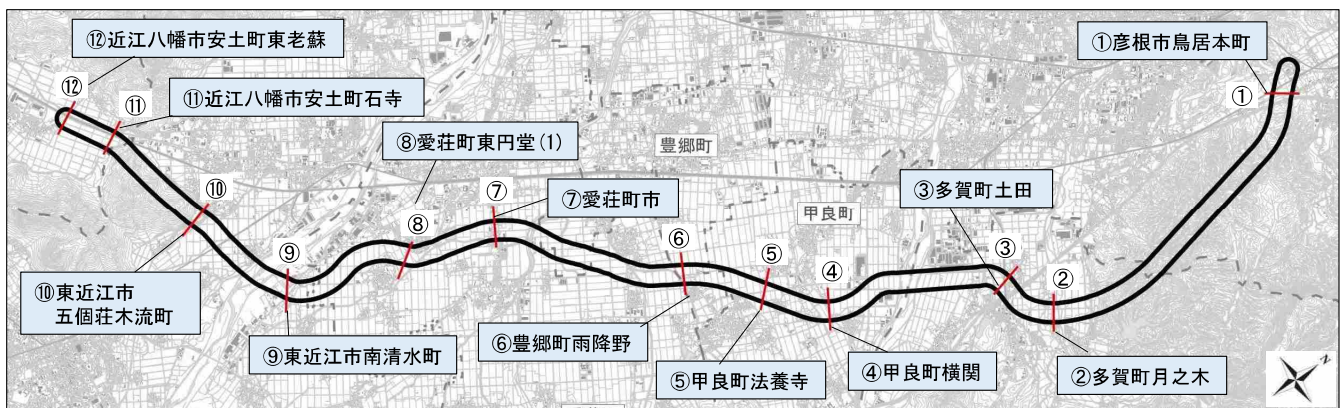
③自動車の走行

【振動】③自動車の走行に係る振動

準備書：第11章

予測地点

12地点において予測評価を実施。



予測結果

●すべての予測地点において基準値以下と予測。

| 振動レベルの80%レンジの上端 (L_{10}) | | 基準値 (要請限度 ^注) | |
|------------------------------|---------|--------------------------|------|
| 昼間 | 夜間 | 昼間 | 夜間 |
| 41~53dB | 41~52dB | 65dB | 60dB |

注) 「振動規制法施行規則」(昭和51年11月10日総理府令第58号)の道路交通振動の限度

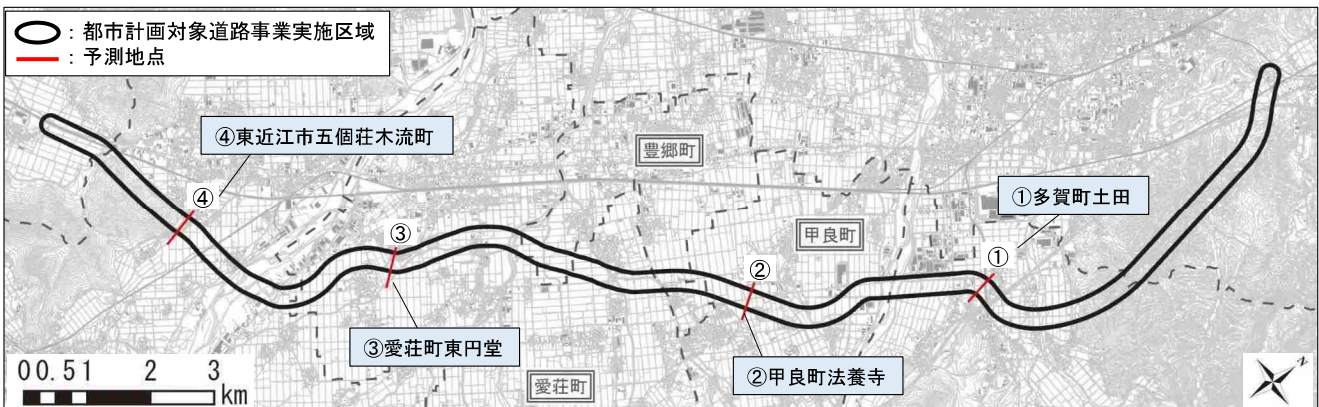
低周波音

〈供用後〉自動車の走行

【低周波音】自動車の走行に係る低周波音

準備書：第11章

予測地点 4地点（地上1.2m）において予測評価を実施。

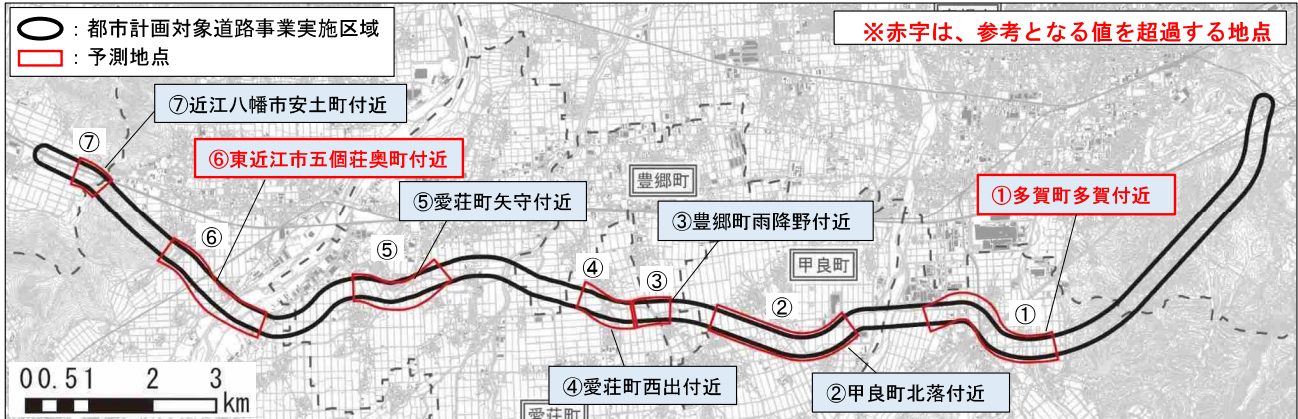


予測結果 ● すべての予測地点において参考値以下と予測。

| 予測結果 | | 参考となる値 ^注 | |
|---------------------------------|-----------------------------------|---|---|
| 50%時間率音圧 レベル (L_{50}) | G特性5%時間率 音圧レベル (L_{G5}) | 一般環境中に存在 する低周波音圧レ ベル (L_{50}) | ISO7196に規定され たG特性低周波音圧 レベル (L_{G5}) |
| 70~79dB | 80~86dB | 90dB | 100dB |

注) 「道路環境影響評価の技術手法(平成24年度版)」(平成25年3月、国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所)における「低周波音の参考となる指数」

予測地点 7地点において予測評価を実施。



予測結果 ● 2地点で参考値を超過。

| 予測結果 | 参考となる値 ^注 |
|-----------|---------------------|
| 0時間～5時間以上 | 2階で5時間 |

注) 「公共施設の設置に起因する日陰により生ずる損害等に係る費用負担について」
 (昭和51年2月23日建設省計用発第4号)の公共施設の設置後の日陰時間

**環境保全
 措置**

・ 高架構造物の上下部工の形式・配置等の工夫

動物

＜工事中＞ 工事の実施

＜供用後＞ 道路の存在

予測対象

現地調査により確認された重要な動物種(哺乳類16種、鳥類61種、両生類13種、爬虫類7種、魚類26種、昆虫類33種、底生動物20種、クモ類2種、ヤスデ類等1種、陸産貝類13種の計192種)を対象に予測評価を実施。



ニホンザル



ミサゴ



ツチガエル



ニホンイシガメ



ナツアカネ

予測結果

- 一部の生息環境が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く分布しているため、生息環境は保全されると予測。

環境保全措置

準備書
P11-7-235
~P11-7-238

- 移動経路の確保
- 使用重機の配慮
- 濁水処理施設の設置
- 河川への影響に配慮した施工
- 道路照明の漏れ出しを防止した構造及び誘因性の低い照明の採用
- 工事関係者の教育

50

植物

＜工事中＞ 工事の実施

＜供用後＞ 道路の存在

予測対象

現地調査により確認された重要な植物種(56種)及び植物群落(1群落)を対象に予測評価を実施。



ウリカワ



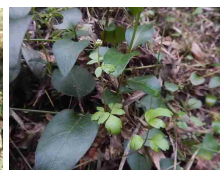
サイハイラン



ミクリ



オグルマ



レンブソウ



ヤワラゼニゴケ

予測結果

● 6種の植物は、生育環境が保全されないと予測。

環境保全措置

- 重要な植物種の移植又は播種
- 濁水処理施設の設置
- 河川への影響に配慮した施工
- 工事関係者の教育

準備書
P11-8-60
~P11-8-62

事後調査

移植又は播種した植物の生育状況について、各種の生活史及び生育特性等に応じて、事後調査を実施。

準備書
P11-8-63

生態系

＜工事中＞ 工事の実施

＜供用後＞ 道路の存在

予測対象

実施区域及びその周辺における地域を特徴づける生態系を対象に予測評価を実施。

【地域を特徴づける生態系】

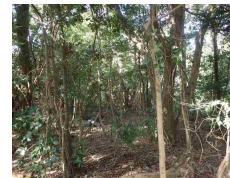
| 生態系区分 | 分類 | 注目種・群集 |
|--------------------|-----|----------------------------------|
| 山地・丘陵地の樹林を中心とする生態系 | 上位性 | ホンドテン、オオタカ |
| | 典型性 | タヌキ※、カラ類、アベマキーコナラ群集 |
| 低地・台地の田園域を中心とする生態系 | 上位性 | キツネ※、サギ類、チョウゲンボウ |
| | 典型性 | ハクセキレイ、ニホンアマガエル、ハイイロゲンゴロウ、水田雑草群落 |
| 河川(中～下流域)を中心とする生態系 | 上位性 | キツネ※、サギ類、オオタカ |
| | 典型性 | ハグロトンボ、スジエビ、アユ、ツルヨシ群集 |



キツネ



オオタカ

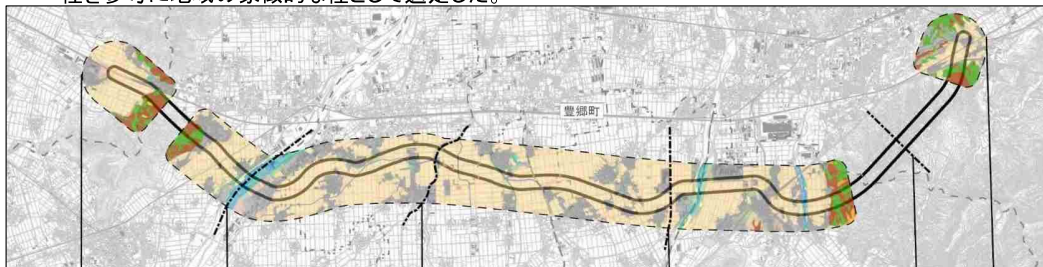


アベマキーコナラ群集



ツルヨシ群集

※) 滋賀県レッドデータブック2005年版の注目すべき群集・群落・個体群及び郷土種を参考に地域の象徴的な種として選定した。



自然環境類型区分
 山地・丘陵地の樹林を中心とする生態系
 二次林
 植林
 田園域
 草地
 低地・台地の田園域を中心とする生態系
 二次林
 植林
 田園域
 草地
 河川(中～下流域)を中心とする生態系
 水域
 水辺植生
 市街地
 市街地他

--- ブロック境界
 ○ 都市計画対象道路事業実施区域
 ○ 調査範囲

予測結果

- 一部の生息・生育環境が消失・縮小するが、周辺には同様の環境が広く分布しているため、生息・生育基盤、生息・生育環境は保全されると予測。

環境保全措置

準備書
 P11-9-46
 ~P11-9-49

- ・ 移動経路の確保
- ・ 使用重機の配慮
- ・ 濁水処理施設の設置
- ・ 河川への影響に配慮した施工
- ・ 道路照明の漏れ出しを防止した構造及び誘因性の低い照明の採用
- ・ 工事関係者の教育

景観

＜工事中＞ 工事の実施

＜供用後＞ 道路の存在

【景観】工事の実施、道路の存在に係る景観

準備書：第11章

予測地点

実施区域及びその周辺における、景観資源9地点、主要な眺望点13地点を対象に予測評価を実施。



※身近な自然景観の景観資源の内、「耕作地」については、調査地域全域に分布しているため、図示していない。

0 0.5 1 2 3 km



○：都市計画対象道路事業実施区域
 ○：調査地域
 (方法書段階の都市計画対象道路事業実施区域及びその端部から3km程度の範囲)

■：景観資源
 ■：主要な眺望点
 ■：眺望景観に変化が生じる地点
 ■：8.琵琶湖国定公園
 ■：9.湖東県立自然公園

予測結果

＜主要な眺望点・景観資源の改変＞

- 全ての主要な眺望点については、対象道路による改変はない。
- 景観資源については、「湖東県立自然公園」、「耕作地」において一部改変が生じるが、大部分は残される。

＜主要な眺望景観の変化＞

- 3地点において眺望景観に変化が生じると予測。

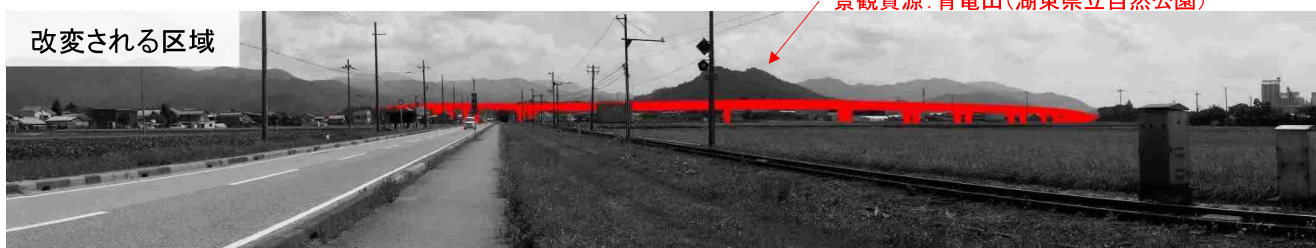
環境保全措置

準備書
P11-10-43
～P11-10-44

- ・ 構造物（橋梁等）及び道路付属物の形式、デザイン、色彩の検討
- ・ 地形改変部（法面含む）の緑化

58

● 予測結果(身近な自然景観: 8.近江鉄道踏切)



※赤着色部分が都市計画対象道路を示します。

59

●予測結果(身近な自然景観:9.甲良町公民館)

現況



供用後



対象道路

景観資源:湖東県立自然公園(一帯の山)

改変される区域



※赤着色部分が都市計画対象道路を示します。

●予測結果(身近な自然景観:11.八坂神社)

現況



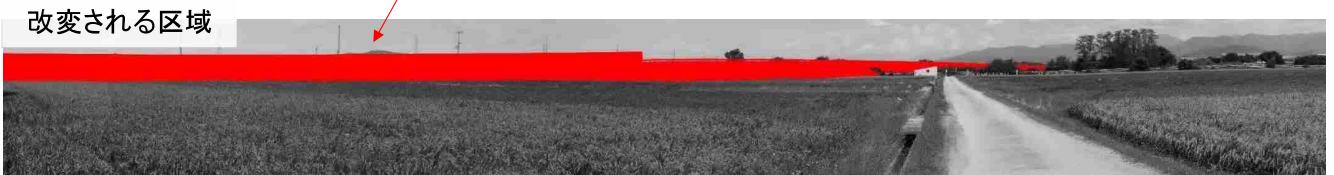
供用後



対象道路

荒神山(琵琶湖国定公園)

改変される区域



※赤着色部分が都市計画対象道路を示します。

人と自然との触れ合いの活動の場

＜工事中＞ 工事の実施

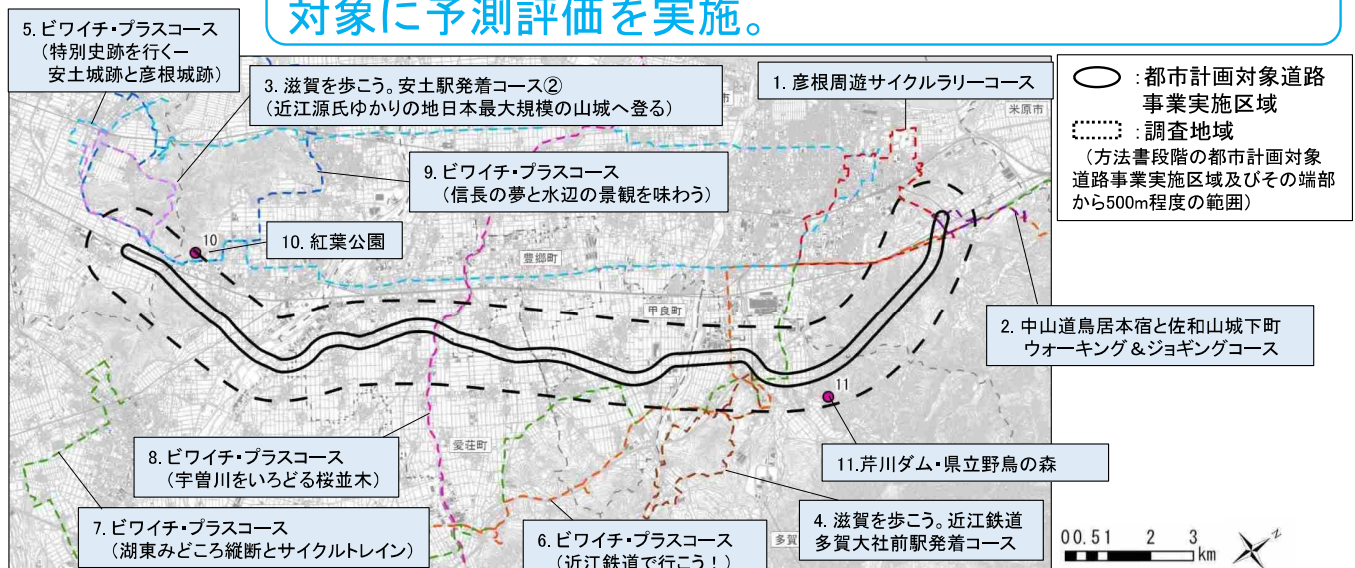
＜供用後＞ 道路の存在

【人触れ】工事の実施、道路の存在に係る人と自然との触れ合いの活動の場

準備書：第11章

予測地点

主要な人と自然との触れ合いの活動の場11地点を対象に予測評価を実施。



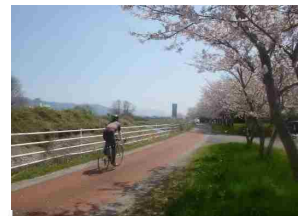
彦根周遊サイクルラリーコース



中山道鳥居本宿と佐和山城下町
ウォーキング&ジョギングコース
(湖東みどころ縦断とサイクルトレイン)



ビワイチ・プラスコース
(湖東みどころ縦断とサイクルトレイン)



ビワイチ・プラスコース
(宇曽川をいろいろ桜並木)

予測結果

< 主要な触れ合い活動の場及びそれを取り巻く自然資源の改変 >

- 5箇所のサイクリングコース等について、一部改変が生じるが、工事中のう回路の確保や付け替え道路の整備を行うため、触れ合い活動の場としての機能は確保されると予測。

< 利用性の変化 >

- 一部改変が生じる箇所については、機能復旧をすることから、散策、ジョギング、サイクリング等の利用に支障は生じないため、利用性の変化はほとんど生じないと予測。

< 快適性の変化 >

- 一部の触れ合い活動の場から対象道路が直近に視認されるが、対象道路が視認される範囲はルート上のごく一部のため、快適性の変化はほとんど生じないと予測。

環境保全措置

準備書
P11-11-32～P11-11-33

- ・ 構造物(橋梁等)及び道路付属物の形式、デザイン、色彩の検討
- ・ サイクリングコース、アクセス道路等の移設・機能復旧

64

廃棄物等

< 工事中 > 工事の実施

予測対象

工事の実施により発生する建設副産物を対象に予測評価を実施。

予測結果

＜建設発生土＞

- 掘削工事等により発生するが、関係法令に基づき、事業内利用の促進を図り、発生量の100%を盛土材として再利用する計画。

＜コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊＞

- 既存工作物の除去や既存道路の掘削工事により、「アスファルト・コンクリート塊」が発生すると予測されるが、関係法令に基づき、工事の際には分別解体し、再資源化できないものについては、関係法令に基づき適切に処理・処分。

| 種類 | 発生が想定される施設等 | 発生量 | 実施区域内での再利用率 | 実施区域外への搬出量 |
|----------------|---------------|-------------------------|------------------------|----------------------|
| 建設発生土 | 切土又は掘削工事 | 約870,000 m ³ | 約870,000m ³ | 0m ³ |
| コンクリート塊 | 排水構造物、道路側溝 | 0m ³ | 0m ³ | 0m ³ |
| アスファルト・コンクリート塊 | 対象道路と交差する既存道路 | 約3,800m ³ | 0m ³ | 約3,800m ³ |

環境保全
措置

- ・事業内利用の促進
- ・再資源化施設への搬入

準備書
P11-12-3
～P11-12-5

66

文化財

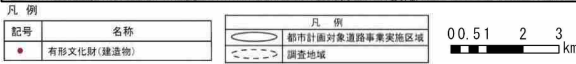
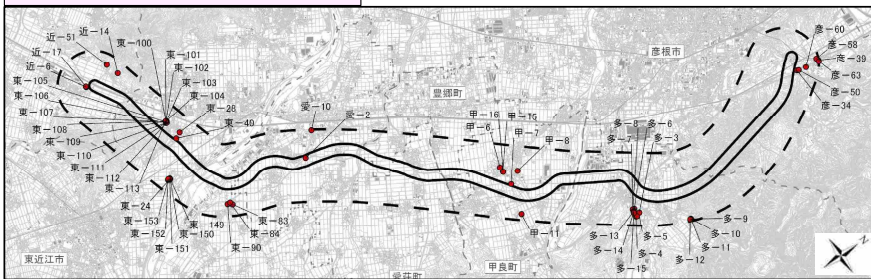
＜工事中＞ 工事の実施

＜供用後＞ 道路の存在

予測対象

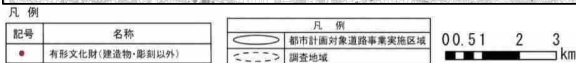
主要な有形の文化財115件、主要な伝承文化31件を対象に予測評価を実施。

<有形の文化財(建造物)>



| 各市町村の予測対象数 | |
|------------|-----|
| 項目 | 建造物 |
| 彦根市 | 6 |
| 近江八幡市 | 4 |
| 東近江市 | 25 |
| 愛荘町 | 2 |
| 豊郷町 | — |
| 甲良町 | 6 |
| 多賀町 | 16 |
| 合計 | 59 |

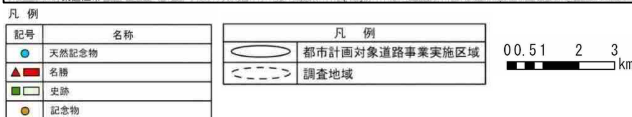
<有形の文化財(建造物・彫刻以外)>



| 各市町村の予測対象数 | |
|------------|----------|
| 項目 | 建造物・彫刻以外 |
| 彦根市 | — |
| 近江八幡市 | — |
| 東近江市 | — |
| 愛荘町 | — |
| 豊郷町 | — |
| 甲良町 | 1 |
| 多賀町 | — |
| 合計 | 1 |

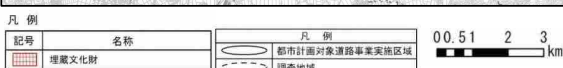
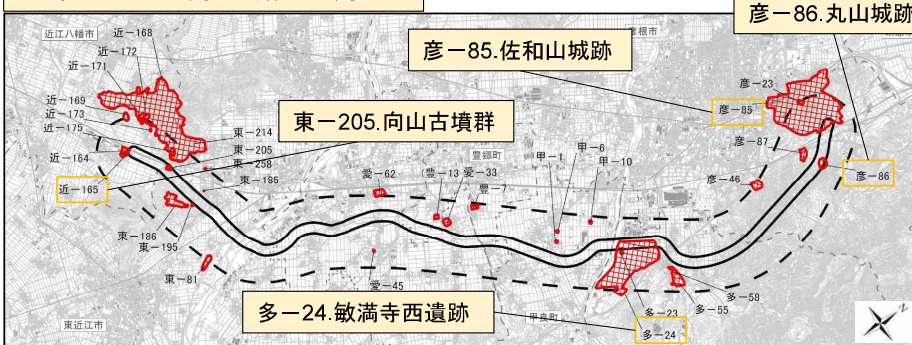
68

<有形の文化財(史跡・名勝及び天然記念物)>



| 各市町村の予測対象数 | |
|------------|--------------|
| 項目 | 史跡・名勝及び天然記念物 |
| 彦根市 | 1 |
| 近江八幡市 | 4 |
| 東近江市 | 1 |
| 愛荘町 | 1 |
| 豊郷町 | — |
| 甲良町 | 1 |
| 多賀町 | 3 |
| 合計 | 11 |

<有形の文化財(埋蔵文化財)>

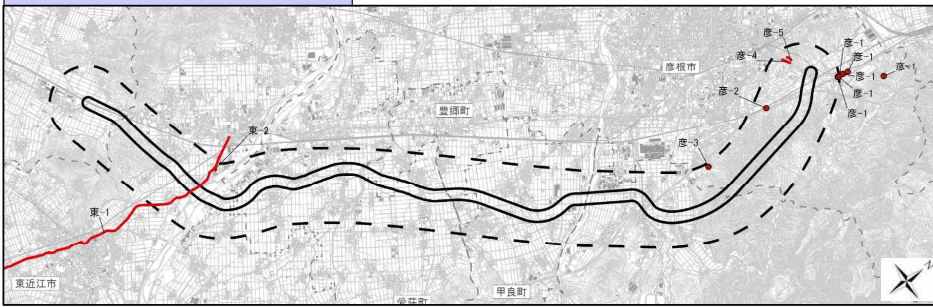


| 各市町村の予測対象数 | |
|------------|-------|
| 項目 | 埋蔵文化財 |
| 彦根市 | 5(2) |
| 近江八幡市 | 8 |
| 東近江市 | 7(1) |
| 愛荘町 | 3 |
| 豊郷町 | 2 |
| 甲良町 | 3 |
| 多賀町 | 4(1) |
| 合計 | 32 |

※赤字は、変更が生じる地点

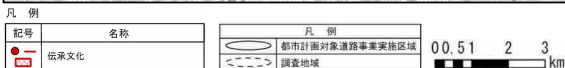
69

＜有形の文化財(未指定)＞



| 各市町村の予測対象数 | |
|------------|-----|
| 市町 | 未指定 |
| 彦根市 | 6 |
| 近江八幡市 | — |
| 東近江市 | 2 |
| 愛荘町 | — |
| 豊郷町 | — |
| 甲良町 | — |
| 多賀町 | — |
| 合計 | 12 |

＜伝承文化＞



| 各市町村の予測対象数 | |
|------------|------|
| 市町 | 伝承文化 |
| 彦根市 | 2(1) |
| 近江八幡市 | 8 |
| 東近江市 | 9(1) |
| 愛荘町 | — |
| 豊郷町 | — |
| 甲良町 | 1 |
| 多賀町 | 11 |
| 合計 | 31 |

※赤字は、改変が生じる地点

予測結果

- 一部の埋蔵文化財において直接改変が生じると予測。
- 一部の伝承文化について工事中の一時的な改変が生じるが、必要に応じてう回路の確保等を行うため、工事の実施による改変は最小限に抑えられる。
- 周辺環境の変化による影響や文化財内部からみる風景の変化による影響はほとんど生じないと予測。
- 工事中のう回路の確保や付け替え道路の整備を行うため、アクセス特性の変化による影響は生じないと予測。

環境保全措置

準備書
P11-13-212~P11-13-213

- 文化財保護法等に基づく適切な措置
- 構造物（橋梁等）及び道路付属物の形式、デザイン、色彩の検討
- 地形改変部（法面含む）の緑化
- アクセス道路等の移設、機能復旧

環境影響の総合的な評価

72

◆環境影響の総合的な評価

準備書：第12章

- 対象道路の位置及び基本構造の検討段階から環境保全に配慮しており、各環境要素について事業者が実行可能な範囲内で環境保全措置を講じることにより、対象道路が周辺環境に及ぼす影響についてできる限り回避又は低減が図られている。
- また、植物については、環境保全措置(重要な植物種の移植又は播種)の内容について、効果の不確実性を伴うことから、事後調査を実施し、専門家等の指導・助言を得ながら適切な措置を講ずることとする。
- このことから、対象道路に係る環境の保全について適正な配慮がなされていると評価する。

73